



2019-20 年度地区方針「グローバルに考え 地域社会とつながり ロータリーを成長させよう」

本日 第2365回 2020年2月22日(土) No. 2247

本日のプログラム Today's Program 国際ロータリー第2760地区 2019-20年度
点 鐘 14:15 東尾張分区 インターシティミーティング(IM)
斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」 於:キャッスルプラザ ホスト:尾張旭RC

前回 第2364回 2020年2月14日(金) 記 録

○出席者: 会員 24 名中 19 名出席 出席率 79.16%

会長あいさつ 加藤 清久



今日は、三菱が開発中のスペースジェット旅客機のお話をします。先週、新聞各紙に三菱スペースジェットの記事が出て開発が遅れているとの批判的な記事が載りました

私はこの記事を読んで、これはすこし違うなと思いました。

飛行機は、一般の工業製品と違って、多くの高品位部品で構成され、高品質が要求される工業製品です。従って、世界で製造できる会社は数社しかなく、日本では三菱重工業しかできないのです。

日本の航空機開発の歴史は、アメリカのライト兄弟が1903年初飛行に成功、以来、日本においては1939年、世界で最高水準の零式艦載機が完成させ、航空技術において世界のTOPクラスに位置しましたが、敗戦により航空機の製造を禁止され、開発が許された1964年、YS-11を、そして、現在、本格的なジェット旅客機、三菱スペースジェットの開発となったのです。

翻って、最近、「航空機を世に出すことは、モデルチェンジも含めて、全くの新機種を出すことだ」と云っても過言ではありません。

と云われるには、年々、新技術が要求され、燃費改善、騒音低減、人口頭脳搭載、油圧制御からモーター制御へと、その技術革新に枚挙のいとまがなく、世界で一番の歴史を誇る航空会社ボーイングでさえ、最新旅客機ボーイング737MAX8型を2度も墜落させています。

最新旅客機を開発するということは、100%を完成とするならば、99%出来ても、残りの1%は、今までに要した労力、期間を費やさないと完成しないものなのです。なにか、99%の製品でよいと云うならば、すでに、試作機が飛行しておる実績があるのです。

最高の品質を創る、時代に要求された製品を創るのですから、これは、開発の遅延というのではなく新技術への挑戦と受け止めるべきでしょう。これこそが、日本の匠の技であり、もし、これが出来ないということであれば、日本の製造技術は崩壊したと云っても過言ではありません。

私は、この三菱スペースジェットは、必ず、成功すると思っていますが、皆さまも、世界に三菱スペースジェットが羽ばたく日を楽しみにしていた

平和と紛争予防／紛争解決月間

	2月28日(金)	3月6日(金)	3月13日(金)	3月20日(金)
例 会 予 定	休会	移動例会 小規模保育園備品贈呈式 於: Memory tree 旭保育園 担当者: 青少年奉仕委員会	セミナー例会 担当者: プログラム委員会 テーマ: 「子育てママを明るく、 元気にするために」	休会

だき、ご支援いただきますようお願いしてお話を終了します。

「今回は、いよいよ、会長の人生感のお話をしようと思っています。」

ニコボックス

○皆様からバレンタイン・贈り物をいただきました。ありがとうございました。

加藤 清久さん、桜井 雅博さん、森 康美さん

○庭の紅梅が満開になりました。今年は春が早いですね。加藤 清久さん

○飯田先生、ありがとうございました。加藤 清久さん

○どうなる、コロナウィルス。江尻 豪さん

○うがい、手洗い、マスクをしてコロナウィルスの予防をしましょう。

菊田 利昭さん、熊澤 功さん、桜井 雅博さん
中森 正裕さん、古橋エツ子さん

○今日はバレンタインですね。チョコレートの食べ過ぎに注意して下さいね。

谷口 亜弥さん、田中 祐子さん

○12日タイ・ラオスから帰ってきました。無事に帰ってはきましたが、1週間はおとなしくしていようと思います。来週はいよいよIMですね。

森井 晴生さん

○IMまでカウントダウンです。よろしく。コロナウィルスに感染しないように。箕輪 良孝さん

つなぐらう | 暮らしの心と暮らしの誇り! | ニコボックス | PROGRAM (プログラム) | IM 実行委員長挨拶

尾張旭児童合唱団定期演奏会へ協賛



尾張旭児童合唱団へ協賛金を贈呈いたしました。

第 27 回尾張旭児童合唱団定期演奏会
日時：2020年4月19日(日)
場所：尾張旭市文化会館 13:30~

卓話



「IM についてのクラブフォーラム」
IM 実行委員長 箕輪 良孝

- 1) IM 事前打ち合わせ
- 2) IM リハーサル
- 3) 当日の注意事項・役割分担確認



2月7日(金)例会 卓話



「ロータリーから学んだこと」
仲澤 昌容

私は 2011 年 8 月 26 日 42 歳のときに入会致しました。入会年から振り返りながらお話ししたいと思います。

2011-12 (1 年目) ニコボックス委員 週一回の例会から月に 1 回程度しか顔を合わすことのない会員もおみえのため、なかなか気持ちが楽にならなかった。2012-13 (2 年目) 親睦活動委員として夜間例会等の手配を通して少しずつ馴染んでいった。

2013-14 (3 年目) クラブが地区研修協議会のホストを引き受けた事により、地区の組織について学んだ。また、クラブ外の人とも多数交わる事ができ、人との接し方、考え方等多くを勉強できた。

2014-15 (4 年目) 学んだことがまだ自分のものできず、クラブに返すことができなかつた。

2015-16 (5 年目) 仕事の役割が増え、地域の行事や市政と関わる機会が増えた。ロータリークラブの存在について考えるようになった。民間企業ではない奉仕団体だからできることを尾張旭市の役に立つように行いたい。

2016-17 (6 年目) クラブの会計の簡素化を目指す。クラブが市にできることはないのかと考え、少しできはじめた気がする。

2017-18 (7 年目) 会員増強委員長だが増強できず。

2018-19 (8 年目) 青少年奉仕委員長として奉仕活動先に挨拶に行き、関係をさらに深くするよう務めた。尾張旭市に限らずできることはお手伝いしたい。

2019-20 (9 年目) 分区の役割を頂き、先輩がつくったクラブの名前を汚さず引き継いでいこうと思う。受けた恩を恩返し、恩を送ろうと思います。